

事務事業名	真岡 I C 周辺地区開発推進協議会支援事業				担当	産業環境部 企業誘致課 業務係		
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			電話番号	0285-84-8341		
施策名	03	工業の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	市補助金等交付規則					<input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 10 年度~)		
予算科目	7. インターチェンジ周辺 開発事業特別会計	1. インターチェンジ周辺 開発事業費	1. インターチェンジ周辺 開発事業費	1. 宅地造成事業費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度)		
事業概要	<p>・本会は、当初平成9年10月に真岡インターチェンジ周辺地区の開発の実現に向けた調査研究・推進活動を行うことを目的に真岡インターチェンジ地区開発研究会として設立された。平成10年5月に真岡インターチェンジ周辺地区開発推進協議会設立(名称変更)。真岡インターチェンジ周辺開発事業について、円滑な事業の推進を図るため協議・研究等を行い、地権者の望む住環境の整備に向けて、地権者と行政が一体となって推進活動を実施するものに対して支援するものである。平成21年度は、繰越金により竣工記念品の購入、竣工記念碑の設置等を行い清算し協議会を解散した。</p>							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動) 22年度実績 事務処理 (金銭出納事務、連絡発送事務、機関紙発送事務) 23年度計画 なし		⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移						
		名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
		ア 協議会支援事務日数		10	10	10		
		イ 協議会への補助金額		270	240	0		
		ウ 機関紙発行回数		2	1	1		
		エ						
		オ						
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 協議会		⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) の推移						
		名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
		ア 協議会数		1	1	1		
		イ 協議会会員数(地権者数)		220	220	220		
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 協議会の円滑な運営。 真岡IC周辺開発事業に対する地権者の合意形成		⑦ 成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移						
		名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
		ア 開発事業に合意した会員		100	100	100		
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
④ 結果 (どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 真岡IC周辺開発事業が円滑に推進される。		⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) の推移						
		名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
		ア 区画整理事業の進捗率		82	95	100		
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	事業費計 (A)	千円	270	240	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	0	0
		延べ業務時間	時間	80	70	70	0	0
		人件費計 (B)	千円	335	292	284	0	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	605	532	284	0	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成10年、真岡IC周辺開発地区の事業実現に向け、地権者の合意形成を図るため設立した。
②事務事業を取り巻く状況 (対象者や根拠法令等) はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	真岡IC周辺開発事業終了までの継続要望があり、平成21年度まで本事業を進めていたが、平成22年3月末の土地区画整理事業の竣工式を迎えるにあたり、協議会も解散した。
③この事務事業に対して関係者 (住民、議会、事業対象者、利害関係者等) からどんな意見や要望が寄せられているか？	土地利用上の情報交換の場として活用され、地元の理解・協力が得られ、事業が順調に進展した。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 真岡IC周辺土地区画整理事業の円滑な推進を目的としており、市の政策体系に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 真岡IC周辺土地区画整理事業の円滑な推進を目的としており、公共関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 協議会への支援であり適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 平成21年度をもって協議会が解散したため向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 平成21年度をもって協議会が解散したため影響はない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？ ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 協議会はすでに解散し、また補助金についても平成21年度から0であり、これ以上の削減はできない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 協議会はすでに解散し人件費がかからないので、これ以上の削減はできない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 地権者の合意形成を図るための支援であり、公平公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							